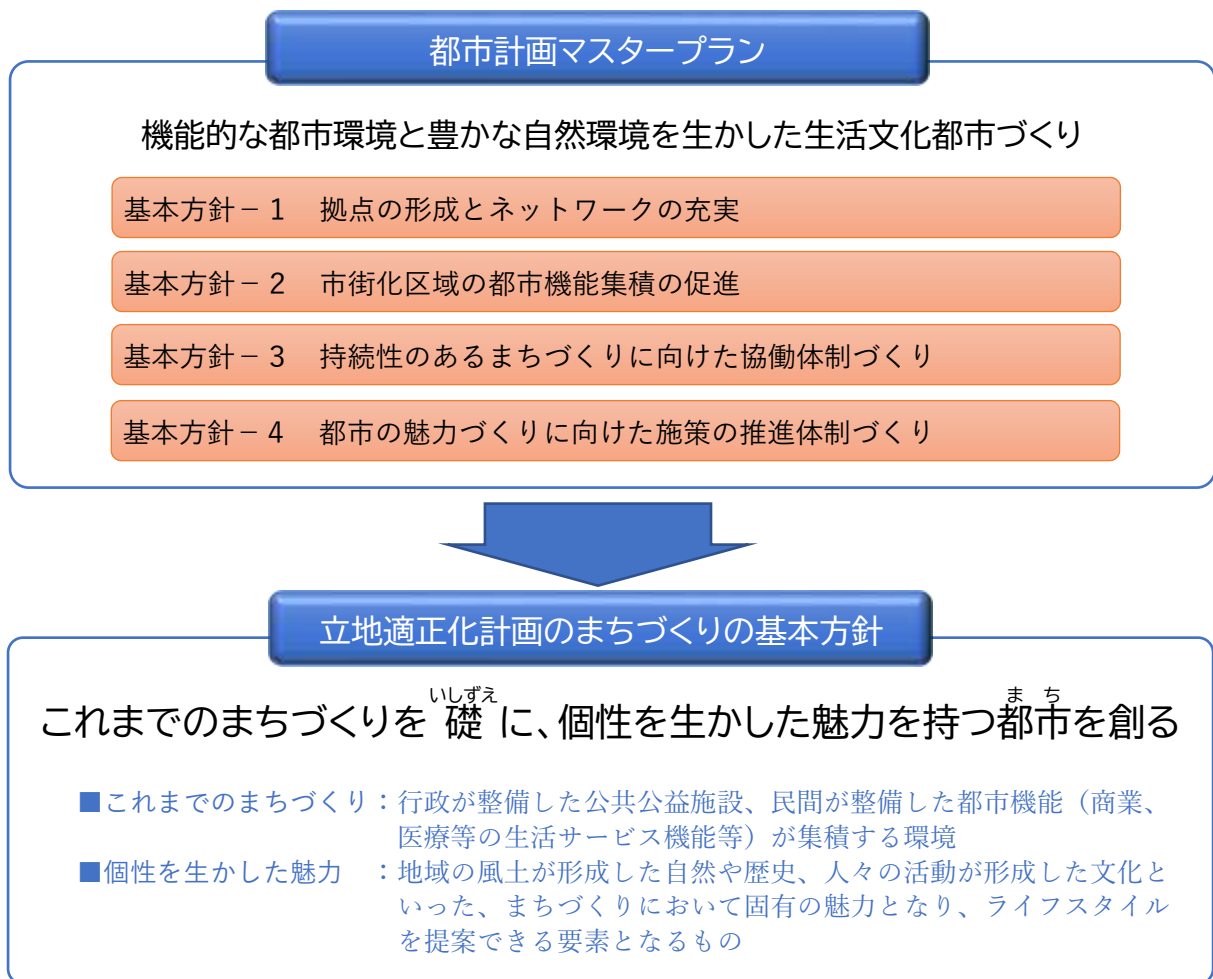


VI-1 まちづくりの基本方針

1. 那珂市全体のまちづくりの基本方針

立地適正化計画では、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方にに基づき、居住や都市機能の誘導を図りますが、都市計画マスタープランでは、都市づくりの理念を「機能的な都市環境と豊かな自然環境を生かした生活文化都市づくり」と定め、人口減少や高齢化を見据えつつ、水戸市やひたちなか市に隣接するという特性を考慮し、「集約と連携を基本とした都市機能の配置を進める」とともに、水戸都市圏北西部に位置し豊かな自然要素を有する環境を生かし、「人々を惹きつける生活文化が創出できる暮らし環境づくり」を目指すことが示され、4つの基本方針が示されています。

このようなことから、立地適正化計画では、拠点形成やネットワークの充実、市街化区域への都市機能の集約化、持続性のあるまちづくり、都市の魅力づくりの実現を目指し、まちづくりの基本方針を「これまでのまちづくりを礎(いしずえ)に、個性を生かした魅力を持つ都市(まち)を創る」とします。



2. 菅谷市街地と瓜連市街地のまちづくりの基本方針

菅谷市街地と瓜連市街地は、本市の日常生活の拠点であり、周辺都市を含みながらこれら2つの市街地を中心とする生活圏域が形成されていることから、これを基本に持続可能なまちづくりに向けた居住や都市機能の誘導を図ることとします。

一方で、居住を促進するためには、地域資源やストックを生かした個性あるまちづくりが不可欠であることから、菅谷市街地と瓜連市街地それぞれの個性を生かしたまちづくりを推進しますが、都市計画マスタープランの地域別構想（コミュニティ単位を基本とする区域）において示される将来像を踏まえて、菅谷市街地、瓜連市街地の基本方針を次のように設定します。

都市計画マスタープランでの地域の将来像【菅谷地域】
都市核として那珂市での暮らしの魅力を高める地域

菅谷市街地の基本方針

市民生活を支える那珂市の中心拠点
～徒歩・自転車でも暮らせる機能的でコンパクトなまちづくり～

都市計画マスタープランでの地域の将来像【瓜連地域】
那珂市の魅力を発信する交流とゆとりある暮らしの地域

瓜連市街地の基本方針

那珂市北西部の生活を支える生活拠点
～歴史や文化と共生した個性と機能性を持つまちづくり～

VI-2 都市構造の基本的な考え方

都市構造の検討においては、前述の圏域の考え方を踏まえ、那珂市全体と市街化区域（都市機能誘導区域、居住誘導区域の設定対象となる住居系用途地域を有する菅谷市街地と瓜連市街地）に区分して設定します。

1. 那珂市全体の都市構造

本市における生活利便機能を提供する拠点として、菅谷市街地と瓜連市街地を「都市拠点」として位置づけ、市街化区域内への生活利便機能の集積を図ります。

※菅谷市街地、瓜連市街地とも市庁舎は市街化調整区域に立地しますが、近接する市街化区域にあるものとみなし、拠点機能を想定します。

市街化調整区域の生活利便性確保を図るため、市街化区域と市街化調整区域に位置する集落との連携確保を図るとともに、一部に市街地への利便性が低いエリアもみられることから、市街化調整区域における生活利便機能の維持に配慮します。

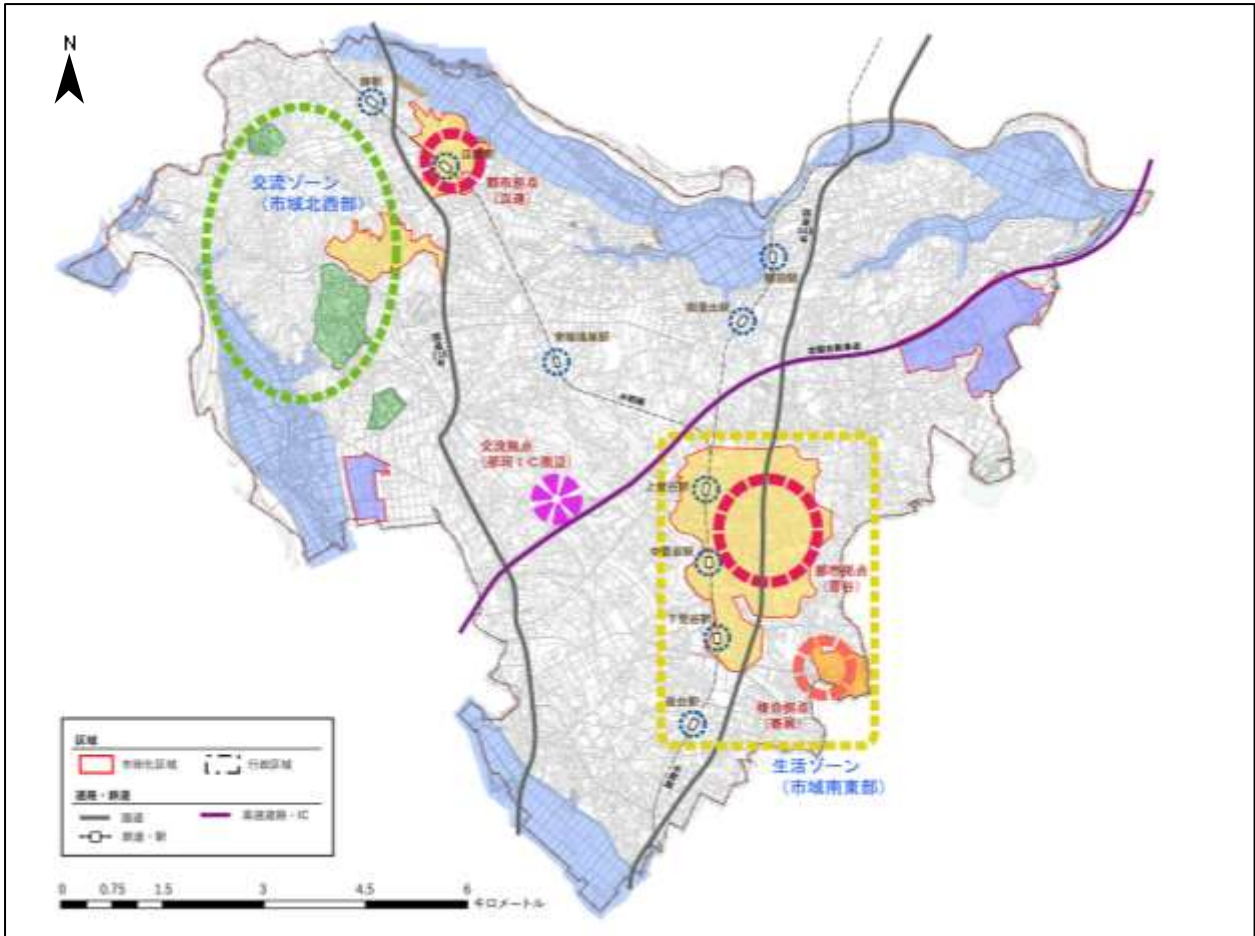
那珂IC周辺については、交流機能も含めた拠点形成も想定されていることから、「交流拠点」として位置づけ、拠点形成の動向を注視し関係部署と連携しながら必要な対応を検討します。

市城南東部（次ページ参照）は、本市の中心市街地である菅谷市街地が位置するとともに、寄居地区では、ひたちなか市と連たんで市街地が形成されていることから、「生活ゾーン」として設定します。また、歴史・文化資源を有する瓜連市街地との連携についても検討します。

市城北西部（次ページ参照）では、観光施設が立地するほか、茨城県によるプロジェクト等も計画されていることから、「交流ゾーン」として位置づけます。また、歴史・文化資源を有する瓜連市街地との連携についても検討します。

一方、那珂川、久慈川沿岸の低地については、浸水想定区域に指定されていることから、既存の集落機能の維持に配慮しつつ、新たな開発を抑制するゾーンとして設定します。

図－那珂市の都市構造



2. 市街化区域の都市構造

(1) 市街化区域の担う役割

菅谷市街地と瓜連市街地の担う役割と暮らし方（ターゲット）は、既存機能の分布及び周辺特性を考慮し、以下のように設定します。

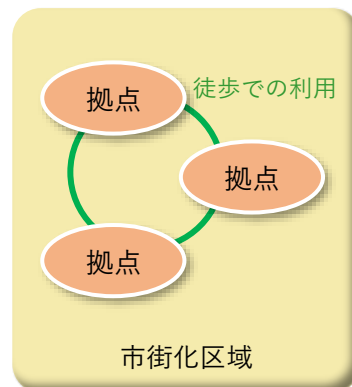
表－市街化区域の都市構造

	菅谷市街地	瓜連市街地
役割	○市の中心的な生活拠点として、日常的な商業・業務、医療・福祉サービスの充実を図ります。	○市域北西部の生活拠点として、日常的な商業・業務機能の維持を図るとともに、地域資源を生かした観光交流の充実を目指します。
暮らし方 (ターゲット)	○公共施設の立地や鉄道駅、整備された都市計画道路、両宮遊歩道による施設の連携を生かし、徒歩や自転車でも移動できるコンパクトな生活空間を目指します。	○国道 118 号沿道の商業拠点や駅、公共施設を生かし、地域の歴史的資源や新しい文化活動などを背景に、周辺の田園環境と調和したコンパクトな生活空間を目指します。

(2) 都市構造

① 菅谷市街地

- 既存の生活利便機能の分布を考慮しながら、徒歩でも利用できる生活圏域が設定できるよう、市街地内に拠点を設定します。(=都市機能誘導区域)
- 土地区画整理事業や開発行為により、既に市街地となっているエリアでの居住機能の維持・更新を進めるとともに、今後市街地形成が見込まれる下菅谷駅東部、国道 349 号バイパス以東のエリアについては、都市計画道路の整備に合わせ、計画的な宅地化を誘導します。
- 国道 349 号バイパス沿道については、沿道からの利用を想定した商業・業務機能の維持を図ります。
- 国道 349 号バイパスに並行する都市計画道路上菅谷下菅谷線沿道についても、公共施設や既存の商業・業務機能の維持を図ります。
- 上記 2 路線の間で市街地を縦断する両宮遊歩道については、自動車に頼らない生活を実現する基幹軸として、歩行者系の動線として位置づけます。
- 市街地を東西に横断する幹線道路については、自転車、歩行者の利用環境の充実を図り、両宮遊歩道との連携により、自転車や徒歩での公共施設、国道 349 号バイパス沿道へのアクセスを確保する動線を形成します。
- J R 水郡線各駅については、公共交通の拠点として位置づけ、交通結節機能の充実とともに、周辺施設との連携強化を図ります。



② 瓜連市街地

- 国道 118 号沿道においては、既存の商業・業務機能の維持を図ります。
- 瓜連駅南側のエリアについては、都市計画道路の整備と合わせ、計画的な宅地化を誘導します。
- 瓜連駅北側のエリアについては、生活利便機能とともに、既存の地域資源を活用した観光交流機能の充実を図ります。
- J R 水郡線瓜連駅については、公共交通の拠点として位置づけ、交通結節機能の充実とともに、周辺施設との連携強化を図ります。
- 平野台地区については、大規模盛土造成地に配慮しつつ、居住の維持・更新を図ります。

VI-3 拠点とネットワークの考え方

1. 那珂市全体での拠点とネットワーク

那珂市全体の配置については、以下の通りとします。

(1) 拠点の考え方

■都市拠点

菅谷市街地と瓜連市街地とします。このうち、菅谷市街地については、全市的な生活サービス機能の提供を想定しますが、瓜連市街地については、瓜連地区及び市北西部の交流ゾーンと連携した機能導入を進めます。

■複合拠点

商業施設が多く立地する寄居地区を位置づけます。本地区では買回性の高い商業機能も有することから、既存の集積を維持するとともに、未利用地の活用や商業機能の充実を図ります。

■交通拠点

J R水郡線各駅を交通拠点として位置づけます。このうち、市街化調整区域に位置する駅については、交通結節機能が不十分な駅もみられることから、公共交通の利用促進策と合わせて機能整備について検討します。

■交流拠点

那珂 I C 周辺については、本市へのアクセス向上や観光・交流を促進するため、現在、利活用について検討されていることを踏まえ、本市及び県北地域へのエントランス拠点として位置づけます。

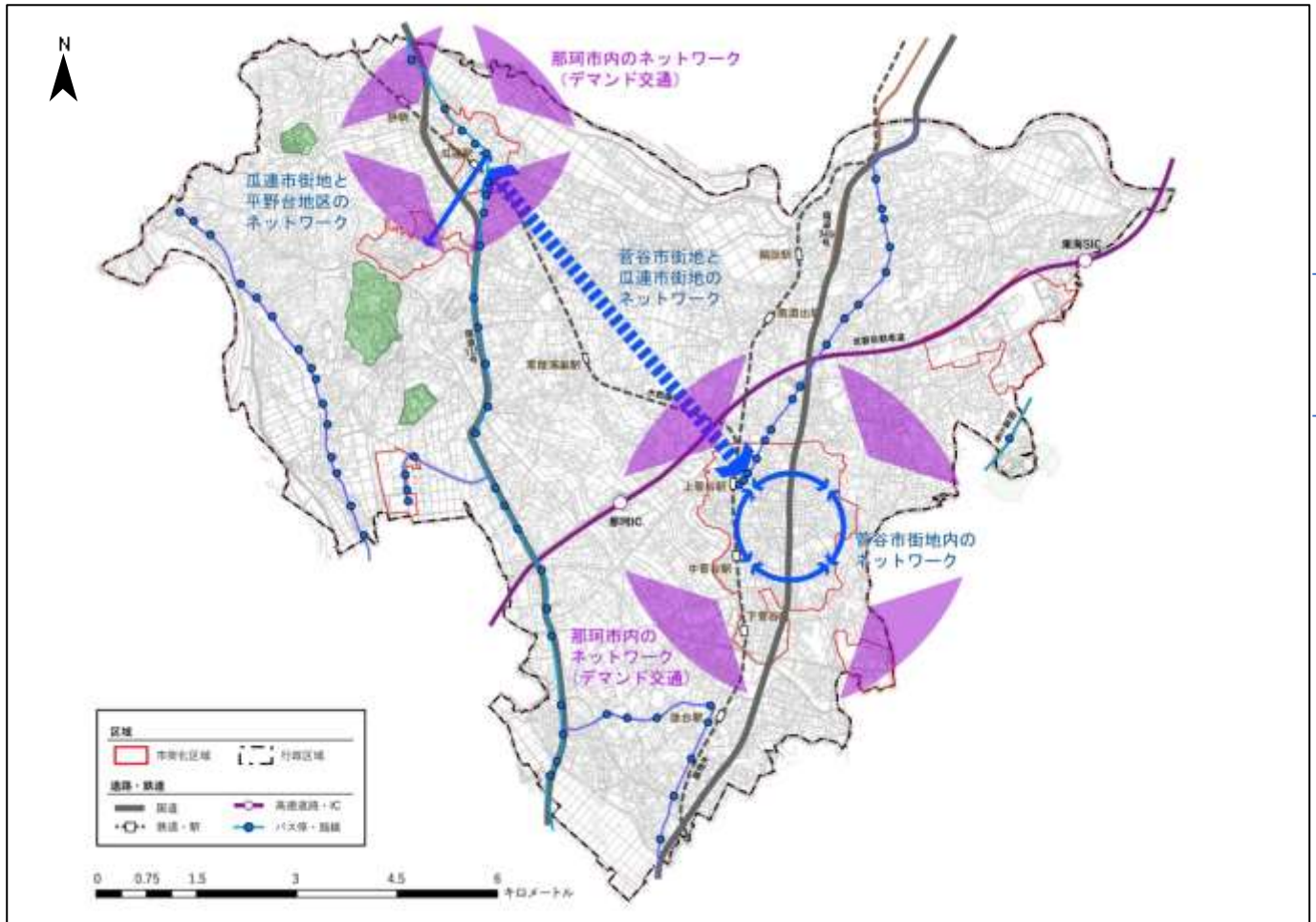
■交流ゾーン

市北西部については、茨城県植物園、県民の森などの整備が検討されていることを踏まえ、地域の自然環境を生かした交流ゾーンとして位置づけます。なお、交流ゾーンの形成においては、瓜連駅や那珂 I C との連携についても検討を行います。

(2) ネットワークの考え方

市全体では、根幹的ネットワークとして、菅谷市街地と瓜連市街地を連携するネットワーク、菅谷市街地内のネットワーク、瓜連市街地と平野台地区を連携するネットワークを想定し、道路及び路線バスなどの充実を図ることとします。また、市内には9つの鉄道駅があることから、これらと連携したネットワークについても、今後検討を行うこととします。さらに、市街化調整区域内の集落から市街化区域へのネットワークについては、デマンドタクシーも想定します。

図ーネットワークの考え方



2. 菅谷地区の拠点とネットワーク

菅谷地区での配置については、以下のとおりとします。

(1) 拠点の配置

■生活拠点（都市機能誘導区域）

菅谷地区における生活拠点（都市機能誘導区域）は、既存の生活利便施設や公共施設の配置、鉄道駅などを考慮しながら、徒歩利用も可能なように市街地内に複数配置します。

■交通拠点

J R水郡線各駅を交通拠点として位置づけます。上菅谷駅と下菅谷駅については、都市計画道路の基点にもなることから、市街地ネットワークを構成する拠点として、公共交通路線の設定や自転車の利用環境整備を検討します。

(2) ネットワーク

菅谷地区内のネットワークについては、市街地南北の歩行者軸となっている両宮遊歩道や都市計画道路を基本に位置づけます。

■自転車・歩行者ネットワーク

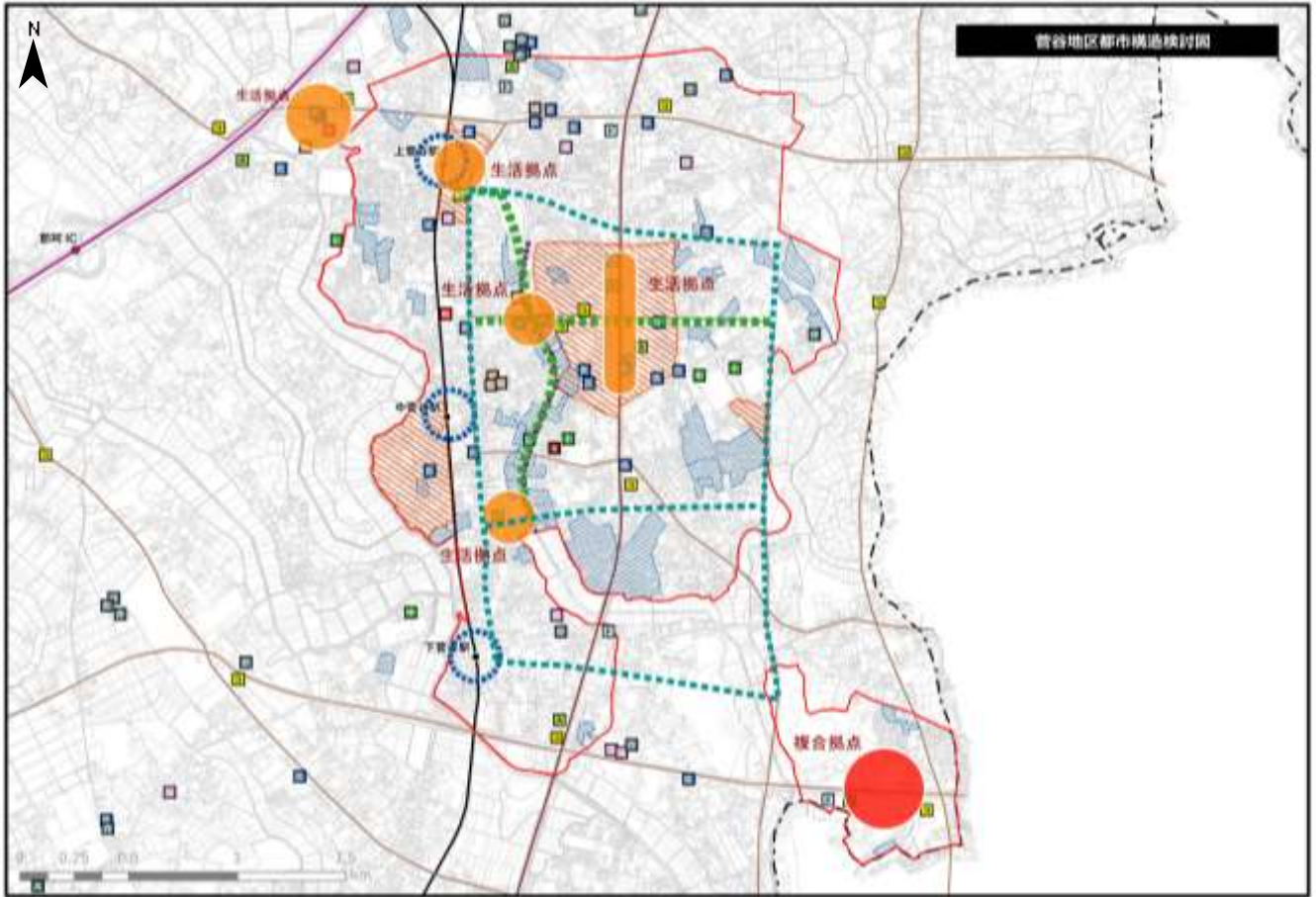
菅谷地区では、住宅地と公益施設、生活利便施設が近接して立地していることから、自転車や徒歩でも暮らせる環境づくりを目指し、都市計画道路や両宮遊歩道を生かしたネットワーク形成を目指します。

特に、地区西側を縦断する両宮遊歩道については、沿道に公益施設や生活利便施設が立地することから、両宮遊歩道を歩いて暮らせる環境づくりに向けた基盤施設として位置づけ、沿道での魅力創出や利用促進策についても検討します。

■市街地ネットワーク

菅谷地区では、格子状の都市計画道路ネットワークが位置づけられ、これまで計画的に整備が進められてきました。現在進めている都市計画道路菅谷市毛線の整備により、菅谷地区を網羅するネットワークが概成することから、市街化区域内の拠点や駅を連携するネットワーク軸として位置づけ、円滑な自動車交通を確保するとともに、公共交通路線としての活用についても検討します。

図－菅谷地区の拠点とネットワーク



- 区域**
- 市街化区域
 - 行政区域
 - 区画整理
 - 開発行為（住宅）
 - 市街地ネットワーク
 - 自転車・歩行者ネットワーク
- 道路・鉄道**
- 国道
 - 県道・その他の道路
 - 高速道路・IC
 - 鉄道・駅
 - 両宮遊歩道
- 災害区域**
- 土砂災害警戒区域
 - 土砂災害特別警戒区域

- 行政機能**
- 市 市役所
 - 福 福祉施設
 - セ コミュニティ・交流センター
 - 文 文化施設（公民館・図書館）
 - 体 スポーツ施設
 - 他 その他生活支援に関する施設
- 医療機能**
- 医 医療施設
- 高齢者福祉機能**
- 介 介護サービス施設

- 教育・保育機能**
- 小 小学校
 - 中 中学校
 - 高 高等学校
 - 幼 幼稚園
 - 保 保育所・保育施設
- 生活利便機能**
- C コンビニエンスストア
 - S スーパーマーケット
 - D ドラッグストア

3. 瓜連地区の拠点とネットワーク

瓜連地区での配置については、以下のとおりとします。

(1) 拠点の配置

■生活拠点（都市機能誘導区域）

瓜連地区における生活拠点（都市機能誘導区域）は、国道 118 号沿道の商業施設、生活利便施設などの立地を踏まえ、公共施設や公共交通を考慮して配置します。

■交通拠点

J R水郡線各駅を交通拠点として位置づけます。瓜連駅については、都市計画道路の基点にもなることから、市街地ネットワークを構成する拠点として、公共交通路線の設定や自転車の利用環境整備を検討します。

(2) ネットワーク

瓜連地区のネットワークについては、都市計画道路を基本に位置づけ、駅南北の利便性向上に努めるとともに、瓜連市街地と平野台地区の連携や市街地内の移動を確保することとし、自動車や公共交通、自転車によって市街化区域内の拠点や駅を連携するネットワーク軸として位置づけます。

図－瓜連地区の拠点とネットワーク

